

特集①「歴史と地理をつなぐ2」

座談会 歴史教員からみた地理 —— 「地理総合」必修へ向けて

長谷川 直子

2022年度より、高校で「地理総合」が必修化されることになった。現状、地理を専門とする地歴科教員は少なく、実際に授業が開講されるとき、歴史や公民を専門とする教員が「地理総合」を担当するケースが多数予想される。その際、地理を専門としない教員が地理を問題なく担当できる環境を作ることが必要だと考える。そこで2017年12月10日、歴史が専門でありながら、過去に地理を担当したことがある3名の教員に集まっていただき、地理を教える上でどのような工夫をされたか、困ったところ、こんなサポートが欲しい、「地理総合」に向けて思うところなどを忌憚なく語っていただいた。

出席者は以下の通り。

A（世界史：公立35年勤務）

B（世界史：公立30年）

C（世界史：公立30年）

X（地理：公立25年）

Y（地理：公立15年）

生田（地理：私立39年、本誌編集委員）

長谷川（司会・大学教員）

出版社（山川出版社）

1. 歴史教員の地理授業経験談

A 地理は初任校で「地理B」を3年間教えました。3校目の学校で2006、2008年に「地理A」を教えました。その際に思ったのは、「地理A」という科目がよくわからない、ということです。「地理B」との関係がわかりません。内容的に苦労したのは地形図のところでした。教えるにあたって自分で地形模型を作ったりして楽しかったのですが、準備に時間がかかりました。気候の単元は個人的に好きなので相当詳しく教えました。しかし試験問題はデータの読み取りばかりでしたので生徒には不評でした。「地理で何を教えるのか」という基本的なイメージが自分の中になかったということです。歴史を教える際は、これを教えて生徒に考えさせたいな、と思ってやっていますが、地理の授業のときは教えるだけで精一杯でした。ショックだったのは、生徒には世界史よりも地理の評判がよかったことです。

地理と歴史は親和性が強く、世界史では地域のことを教えるので、風土の

こともやりますし、歴史上の気候が及ぼした影響とか、いろいろとフィードバックできるところも多く、勉強になりました。

今度心配なのは「地理総合」がどういふものなのかよくわからない。そもそも「歴史総合」もわかっていないのですが。そこがもっとも心配です。

それから、前回の「地理の研究」197号の「歴史と地理をつなぐ1」を読ませていただきましたが、「歴史は暗記科目」という話が出てくることは残念だなと思います。私たち教員は生徒に専門的な用語などを覚えろと言っているわけではなく、いろいろなことを考えさせているのですが、なかなか伝わらないようですね。

これは、私に言わせてもらおうと、大学が重箱の隅をつつくような入試問題を出してくるからかなと思います。

B 本県の場合、地理は学校によって専門の者が担当することもあれば、担任になると学年進行で教科担当をするということもあるので、まちまちです。

個人的には地理は嫌いではないのですが、実際に授業でやるとなると…。例えば、最初の単元にある大地形・小地形などの自然地理分野は、自分としてはやりづらさを感じます。何をどのように学ばせるのか考えてしまいます。人々の営みが出てくる人文地理の分野は授業をしても楽しいですし、自分の専門科目である歴史を理解する

上でも参考になります。また、本題から外れますが、地理で受験する生徒も多くいますので、試験問題の作問にも苦勞しています。こうしたことが多々あります。とくに現在の勤務校ですと、地理受験者や、まれに地理学科に進学したいという生徒もいて、センター試験をはじめ、受験対策用の地理を教えるとなると不安が強くなります。

C 本県の場合は進学校でも自分が担任する学年の授業を担当したいという先生が多く、そういう点では歴史の教員が地理を担当することは多いです。

それから昔、「現代社会」が4単位だった時代は、地理が必修ではなかったので、「現代社会」4単位のうち、2時間は地理をかなりの学校でやっていたと、そんな記憶があります。

地理は基本的に好きです。地理を教えている歴史の先生には地理好きな人が多いのではないのでしょうか。地理専門の先生がいないときに、「じゃあ僕が地理をやるよ」という感じで手を挙げる教員もわりといるのではないかと思います。

2015年、東大の駒場で高校地理教育のシンポジウム¹⁾が行われました。そこである大学の地理の先生が、「地理を専門とする先生は歴史も教えられる」と話されたのですが、その場で地理の先生に「地理以外でどの科目を担当したいですか」と聞きましたら、歴史に手を挙げた人がもっとも少なかった

た。大学の先生が考えている、高校の地理教師像と、現場の高校の教員がみている地理教師と歴史教師の分断が意外にあると思いましたね。

歴史の教員で地理を教えたい、または、授業担当を振られてそこそこ教えられるという人は少数派だと思いますよ。教えるときも個人的に好きだから引き受けますが、歴史を教えているときほど、この単元を通して何を教えるかというのは、なかなか把握できていない。乱暴な言い方をしてしまえば、「地理はこれとこれを暗記しておけばよいのでは」となってしまいます。地理の教員が歴史を暗記科目と思っているのと同じように、歴史の教員が地理を教えると、「これとこれとこれを覚えておけば、生きていくのに困らないでしょ」というような、そんな感じで自分でも教えたのではないかと思います。最初から炎上しそうな発言ですね。

2. 歴史の先生方が学んだ地理と歴史

長谷川 歴史の先生方に質問ですが、ご自身が高校生の頃に地理の授業を受けていますか？

B 私が高校生のときの教育課程では、「地理A」（系統地理）と「地理B」（地誌）でした。通っていた学校に地理専門の先生がいたからだと思いますが、「地理A」（系統地理）の方を学びました。あとになって考えると「地誌」でなく「系統地理」を学習していたよ

かった、というのがあります。「地誌」だと、いろいろな地域をそれぞれの項目ごとにみていくのですが、「系統地理」だと、農業なら農業という視点で、各地域をみていったので、私が地理を教える際には参考になりました。

C 我々の世代が地理にそれほど苦手意識がないのは、ある程度の進学校だと理科で「地学」を履修していたため、自然地理が嫌ではないのです。

歴史の先生で地理が嫌いという、気候などの自然地理を避ける方が多いのですが、我々の世代は「地学」を履修しているのでそれほど苦手意識がない感じがします。

長谷川 そうすると、さらに下の世代だと状況がかなり違いますね。

C 「地学」をほとんど履修していないのでそうでしょうね。

長谷川 「系統地理」と「地学」を学んだおかげで地理に、特に自然地理分野に対して苦手意識があまりなかったということも、教えるうえで重要だったということでしょうか。

A 拒絶反応はないでしょうね。

長谷川 下の世代はその部分をしっかり学んでもらわないと地理を教えるのはなかなか難しいでしょうか？

C 従来の地理を教えるのならそうなのですが、「地理総合」はずいぶん中身が変わりますよね？我々が学習していた頃と、また今の地理とも。

それを教えるときにどうしたらよい

かということ、歴史の教員には全然みえなくなってしまうのです。X「地理総合」は、内容を伝え聞く限り、授業ができない人が続出するのではないかと恐れています。コンテンツベースではなく、コンピテンシーベースになり、知識・技能だけでなく「見方・考え方」を問う試験問題が求められるようになるようです。このような問題を作ることができる能力があり、かつ作ることでできる時間を確保できている教員がどれだけいるのでしょうか。大学の先生が1年かけてやっとできる試験問題を、我々は忙しいから作る時間などほとんどないわけです。そのような新しいタイプの試験問題を毎回の定期考査でできるわけがありません。先ほどA先生が仰っていましたが、我々も「地理A」が何だかわからない。ですから教科書の内容をアレンジして自分のやりたいことをやっています。結局、何をやるのが地理なのかということが明確に、一言で言えないという部分が最大の混沌の原因だろうと思います。

私が歴史の授業を担当したときにもっとも困ったのは、やはりテスト作成です。穴埋め問題しか作れない。それと、自分がわかることで精一杯なので、楽しい話ができない。専門の先生方なら、例えば歴史上の人物一人について30個も40個もエピソードを話せると思うのですが、我々はそれができない。

ですから授業の進度がやたらと速い。余計な話ができないので。

私は高校のときに世界史を学んでいなくて、最初の学校で世界史を担当した際、地理でヨーロッパの地誌を教えるときにはやはり世界史を学んでおいたほうがよいということがよくわかりました。例えばキリル文字とローマ文字の境界を単に覚えさせるというやり方はいわば「ゲス」なやり方で、そこに世界史のローマ帝国の分裂という知識を持ってくると暗記だったものについて納得させられるわけです。

もう一点、なぜ歴史を学ぶことが大事かということ、地理では今の世界を教えますが、過去の歴史があって今があるわけです。歴史の部分をおおまかな流れだけでもわからないと話になりませんので、中学校で世界史が教えられないことは、高校で地理を教える上でマイナスですね。ですから、私は中学校でも世界史をある程度は取り上げていただきたいと思っているのです。

3. 新学習指導要領での地理と地誌

生田 次の学習指導要領でおそらく大きな問題になるのは、教科目のベースに「科目横断」という言葉がよこたわっていることです。「地理総合」には防災やGISなど、歴史の教員には手が出ないような内容が入りますが、実は地理の教員にも手が出ない分野で、GISはパソコンを使うので、家庭科・

情報科の教員とリンクしないとカバーできないという指摘があるそうです。実は他の科目も、例えば英語も理科・社会と連携しないとできないと思われまます。ほとんどの教科目は、「科目横断」という隠れたキーワードがあり、それを消化するには、例えば、地理の教員でも歴史の教員でも相当難しい課題を突きつけられると思うので、現場では混乱すると思います。

C 2016年だったか、「地理総合」を想定した発表が本県でありました。講師の先生は地理が専門なのですが、今までのような諸国の地誌、例えば暮らしとか特産とかを教える授業は消えますね、と重いことを言っていました。防災、環境、GISなど、その先生は「そういうことも好きだからよいのだけれど」と。これは以前から聞いていた話ですが、地理は地誌的な部分はネットで調べればわかるようになってきたので、環境と防災に力点を置いて生き残りを図っているという噂があります。実際そうなのでしょうか？

X 結局イギリス地理教育のモデルをそのまま入れようとしているのです。

C 地誌的な内容がなくなると、歴史の教員はやりにくくなるのではないのでしょうか。

X ですから、次の学習指導要領でも地誌を続ければよいのではないかと、思うのですが…。

Y 私は「地理B」を学んで大学受験

をして、「地理A」は前任校でも教えていましたが、先ほどA先生が仰ったように、何を教えればよいのかかわらないというのが当初はとても大きかったです。学習指導要領によれば「地理A」には地誌がないはずなのに、すべての教科書に載っています。地誌がないと採択されないからという事情があるのではないかと思います。

学習指導要領にはないので、地誌は扱わなくてよいと指導を受けたこともありましたが、いや、それでは生徒も困るでしょう、という思いが正直あります。

C 教科書1冊終わらせたら、とりあえず何らかのテーマで世界全地域を網羅しました、という進め方が現場からは求められています。おそらく「地理A」もそういう並べ方をしているのだと思うのです。

4. 地理歴史科教員の数

B 地理の先生が歴史の試験問題の作成に手こずったという話がありましたが、我々も、若い頃にベテランの教員から、「この分野ではこれが柱なのだ」とか、「この単元ではここに力点を置いた方がよい」とか、教えてもらったことが勉強になったものです。ところが、私は公立校なので転勤が必ずあります。何度も異動経験がありますが、着任した学校で、地理専門の教員にお目にかかる機会はなかなかないのです。

長谷川 やはり地理専門の教員数が少ないのですね。

B そうですね、それをいうと元も子もありませんが。教員同士のやりとりがきつと大事なのだらうと思うのです。今まで、地理専門の教員と一緒に職場にいたことが数回ありましたが、そのときは、いろいろ教わるがありました。教わる機会がないことは、地理が現在直面している残念な現状になっている原因の一つかなと思います。

長谷川 人数的な問題ですか？

B 地理に関して相談できる専門の人が少ないという点は大きいですね。

A 幸い、これまでに赴任したどの学校でも地理を教えている人がいて、10年前に私が地理を教えたときも、同時に転勤してきた地理の教員がいました。「今こんなことを教えていますかよいでしょうか」などと相談ができました。ただどうしても地誌を教えていても歴史を教えてしまうのです。そうすると、「まだそれを教えているの？」などと言われてしまう。

西アジアのときには深入りしてしまっってパレスチナ問題を延々と取り上げてしまいました。

X パレスチナ問題は私も今でも2時間はやっています。この問題がわからないと中東を理解することはできないと思います。授業で地誌をやる上で地理に力点を置いていても、歴史を全く排除しているかという、それはない

と思いますし、それはできないと思います。今を知るためにはおおまかでも歴史を知ることが不可欠だからです。

長谷川 先ほど中学校で世界史が削られているという話がありましたが、「地理を教える上で、知っていなければならない歴史の内容はこんなものです」ということが教科書に不足しているから、それを別のかたちで提示していく必要があるということでしょうか。

X そうですね。

5. 地理の授業を作るための情報源

長谷川 本日は、過去に地理を教えたことがあるベテランの歴史の先生にお集まりいただいたわけですが、歴史の先生全体をみたときに、地理を好きかどうか、自然地理の部分を含めてどのような感じかはわかりますか？

C 私の学校は自分が所属している学年の科目を主に担当するので、初任の人で専門が公民だらうが歴史だらうが、だいたい地理を担当することになりますね。

また、基礎学力が低い学校の生徒には、おそらく自然地理の話をしてその仕組み自体がわからないのではないかと思います。その場合は地誌的などころをみて、覚えて、あとは地図をきちんと確認しておいてね、というくらいで時間切れになる感じでしょうね。

長谷川 その場合の地誌で教える内容というのは、教科書に載っていること

をなぞる感じでしょうか。

C 基本的には「地理A」であれば、教科書に出ている地域を、教科書どおりにというよりは、それぞれの教員なりに内容を砕いて教えているという感じでしょうね。

長谷川 そういうときに教科書以外に参考にする情報源にはどのようなものがあるのでしょうか？他の先生も含めてで結構ですが。

C 学校に届けられる資料集のサンプルや、自分が趣味でみているテレビ番組や本、最近ではネットでもいろいろな情報を集めていました。あと、意外とスポットで役に立ったのが、各出版社が発行している、教員向けの冊子でした。

出版社 教員向けの冊子では地誌特集を多く組んだりしています。

X 資料集は教科書検定がないので、内容が面白い。歴史の史料集も図やイラストがたくさんあっておもしろいですよね。今度の学習指導要領では地誌がなくなっても、現場のニーズは地誌への要望が絶対に強いと確信しているので、それらを盛り込んだ学習参考書を用意してもらおうと助かります。

長谷川 文科省による「地理総合」の方向性(図1)をみると、地誌に関連する事項は「(2)国際理解と国際協力」の中の「グローバル化」のところに入ってくるのでしょうか。

C 歴史の教員が担当しようが、公民

の教員が担当しようが、最後の「生活圏の調査と持続可能な社会づくり」まではいかないのではないのでしょうか。この科目は2単位ですよね？

「生活圏の調査」では、デジタル地図にアクセスできて、モバイルなどを持ちながらブラブラ歩いたりできるのであれば歴史でも使えると思いますが、よくありますよね、江戸の町歩きのような…。

X 「今昔マップ²⁾」というフリーソフトを使って、昔は例えば「立川あたりは軍関係の施設がたくさんあったんだよ」といった感じのものから過去の姿を探してくるということはできますよね。

C そういうものは扱えると思います。今の地図をみて昔はどうだったのだろうかとか。

長谷川 ネットにつながってWebのブラウザが表示できる、というような設備は大丈夫ですか？学校によってはそれ自体が難しいということも聞いたことがあるのですが。

C 基本的に通信回線はすべての教室まで引いてあるところが多いとは思いますが、例えば、それをどう活用するかが問題になります。一人ひとりがタブレットを持っていて、そこに配信されるというのが理想ですが、なかなかそこまではいけません。

X 学校に引かれている回線自体が細いのです。生徒40人が一斉にアクセ

高等学校学習指導要領における「地理総合（仮称）」の改訂の方向性

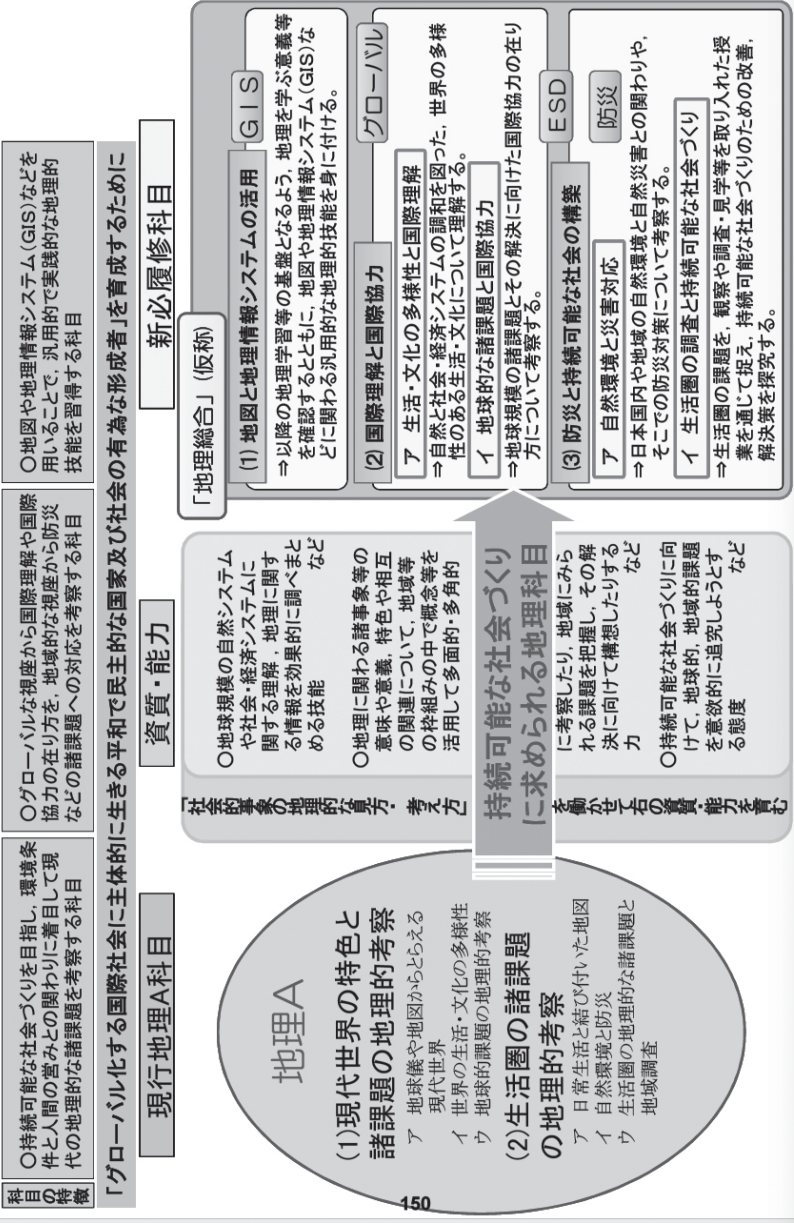


図1 高等学校学習指導要領における「地理総合」の改訂の方向性

スしたら回線がダウンします。

長谷川 GISの話などのときに必ず出るので、準備が大変だということです。そのハードルが高くて実際使うところまで行かないと。

A 英語などはIT機器を使っていて、外国の学校と通信をして会話をする授業を行っているようですが、ハード面のトラブルが多いようです。

X GISについては教員が生徒全員の前でデモをして終わる、というところが現状でのベストではないでしょうか。

Y 私も「今昔マップ」や地理院地図についてはデモをみせるだけです。校内でWi-Fiを利用できるものの帯域が狭くて、生徒40人がタブレットを動かすと一斉にダウンしてしまいます。すると生徒のやる気も失せてしまいます。それを一度経験してからは授業では通信ネットワークを扱わず、生徒に家でやってみて、「どのような感じだったか」という課題を出しています。

一方で、最新の地形図では、例えば山に等高線だけでなく陰影がついていて、GISのように3Dではないにしても立体的に読めるようになりました。新旧の地形図を生徒にみせたら、絶対新しいものの方がよい、と言います。紙の地図をあつかうのも大切です。こういうところからも「地形図アレルギー」がなくなればよいのですが。

B 勤務校ではセンター試験で地理を選択受験する生徒が理系を中心に多く

います。「地理A」で受験できる大学に限られるので、おそらく、皆「地理B」を勉強しています。今年度初めて地理を担当するという30歳前後の若い先生がたまたま持ち時間の関係で担当になりました。最初は相当洪っていて、その先生が言っていたのが、「何を教えてよいのかがよくみえない」ということです。現在勤務校には地理専門の先生がいないので、そうした悩みについても相談ができない。かつて地理を担当していた先生と情報交換をするくらいしかできないのですが、その先生がいうのには、「地理B」の最初の単元である自然地理にやはり四苦八苦したとのことです。人間が出てきてからの方がやりやすかった、と。産業などの単元に入るとよいと言われていきます。1カ月くらい前、「先生が教えていたときは、どのようなことに気をつけていましたか」と聞かれて、「地理はいろいろなものを網羅的に取り上げる」ので、そのときの視点というか、柱が大事なのではないかと答えました。そういった点で、高校の頃に「系統地理」を勉強していて、一つの視点から事柄をみていくということが参考になり、それが自分にとって幸いしたのかなと思いました。

生田 等高線の理解は重要です。新しい表現法が出てきているので、等高線の表示はいらなないかもしれませんが、同じ値のところを結んで線を描くとい

うことは地理では150年前にフンボルトが考えた方法ですが、そういう概念を理解することが地理に限らず空間的な認識には重要であると丁寧に教えることが必要だと思うのです。

この話を突き詰めていくと、教職課程の問題をさらけ出すことになってしまうのですが、そういう問題もあるのかと思いました。

B 進学校ではない学校で、カリキュラム上、地理を教えなければならないときは、割り切っているいろいろな作業をとり入れたりします。例えば、旅行計画を立てさせ、途中で何をやろうとか、特産品や見所を調べたりとか。これはこれでまた楽しいのですが、先の先生が苦勞しているのは、受験に対応するためにどうしたらよいのか、ということです。

長谷川 そのあたり、地理の先生方はいかがですか？ 進学校にいて受験指導をするときに地理の授業ではどのようなことをされますか。

Y 「地理A」は1年生で必修ですが、そこではあまり受験という意識をもって授業をしてはいません。3年生で地理は設置してあるのですが、うちの学校は「地理B」を置いていなくて、学校設定の2単位で行っています。だから、「地理B」の教科書は使っているのですが、こちらがポイントを一方的に話して、あとは勉強しておいて、という感じになってしまっています。

自分の中では「地理A」で地理的な見方や考え方、スキルを身につけさせ、「地理B」はそれを活かして受験対策（受験に向けてのコンテンツをそろえる・増やす）というかたちに分けています。

前任校では「地理A」が1年生で置かれていて、3年次にも学校設定で2単位しか置けないとされていたのですが、そこでは1年生で「地理B」の内容をある程度教え込むという方向性で受験指導をしていました。

6. 「地理総合」の学年

生田 Y 先生に質問ですが、将来の問題なのでお答えできないかもしれませんが、例えば、国公立の大学で地理を受験科目にあげたときに、「地理総合」だけではなくて、「地理探究」も履修していなければ受験できないということになったら、そのときにはその2単位では無理ですね。

Y おそらく必修で「地理総合」を1年次に置きます。

生田 「地理探究」はどこに置きますか？

Y 3年次に学校設定で置くことができます。今のままだと、2単位で適当な名前がついて。しかし内容は「地理探究」の教科書を使い、授業を行うという形になるかと思います。日本史・世界史は3年次にB科目を4単位置いているのです。

出版社 1年生で「地理総合」を本当に置けるかどうかについてはいかがでしょうか。

C 1年生で置かざるを得ないのではないのでしょうか。そのようにカリキュラムを組んでいくのではないかと思います。

こんなことを言うとまた地理の先生から怒られますが、歴史系の先生からすれば、1年次に地理をやっておかないと世界史をやったときに、「イギリスの首都はニューヨーク」とか「イギリスの首都はアメリカ」とか言い出す生徒がいるということで、たぶん地理が1年次に置かれるのではないのでしょうか。

X 私もそう思います。今1年生で地理を置いているのは、自分としては地理を「社会科入門」という意識でやっているからなのです。自然分野でも人文分野でも包括できますので、そういう感じで私はやっていて、それがもっとも大切なのではないかと、と思います。「公共」が1年次という噂もありますね。

C 「現代社会」が2単位になったときに、1年生で、という学校がわりと多くあり、必修の「現代社会」4単位の時も1年生であれをおいてということもやったけど、どう考えても、特に勉強が好きではない生徒の多い学校では「現代社会」を3年生で置かないと、この子たちは卒業後にきちんと生きていけるのかなという話になるし、

選挙のことを考えると1年生で「公共」を置くとは厳しくなるのではないのでしょうか。

X 18歳選挙のこともあり、「公共」は3年次に置くのは駄目だということらしく、「公共」については1、2年での履修とするのでは、という話を聞いたことがあります。

7. 中高の連続性について

生田 自分は私立しか経験がないので、公立の先生方にお聞きしますが、中学校での履修内容と連携することはできないですか？

A 中学で何を勉強してきたかは正直に言うとわかりません。世界史を教えています、やっていない学校も多いです。そもそも高校入試も世界史から出題されません。

地理についても、以前教えたときの話ですが、日本の地理はよく知っているのです。ところが世界の国となると全く知識がなくて、イベリア半島を指して、「この国は何か？」「ポ」で始まるよ」と聞くと「ポーランド」と答える(笑)。「こっちは「ス」で始まるよ、サッカーが強いよ」と聞くと「スイス」と答える(笑)。「スイスはサッカー強いですよ」と真顔で。中高一貫の子と公立の子とでは出だしの部分で知識量が違います。

出版社 前回、中学の学習指導要領が変わり、教科書自体が厚くなって、地

誌が網羅的に変化しました。今回の中学校の新学習指導要領も内容的には変わっていません。

長谷川 新しい学習指導要領では小・中・高の学習の流れを意識し、中学校で学んだ内容の上に積み上げる形で高校の学習内容を設定していくという話についてはいかがでしょうか？

C 小・中・高とすべて公立の学校に通えば、彼らの中では高校受験を通った時点でそれまで習ってきたことがリセットされてしまう。もう一回最初からやっていくというかたちですね。A 先生がいるレベルの学校ではそうでもないかもしれませんが。すべて忘れてしまいます。

A いろいろな生徒がいる中で、教えるべき範囲をきちんとこなせているかということそれは無理です。

C 中学ですでに地誌を習ってきているからといっても、小・中・高と同じことをやっても、高校ではさらに深めていくのが筋であり、重要なのではないかと思うのです。

出版社 文部科学省では小学校・中学校で100%履修してきていると思い込んでいますからね。生徒がすべてできると思っていますから。中学の教科書を100%理解できている生徒なんてそうそういないでしょう。

A 学校による差が大きく、自学自習のプリントで小学校でやる内容の計算問題をやっている学校もあります。

出版社 都道府県でも、新潟県の人には悪いけれど新潟県民以外は「潟」の字は書けませんよ。それを書けるようにしようというのが今度の学習指導要領です。教科の内容よりも読み書きをしっかりとするという、そんなレベルです。

次の学習指導要領ではそれを国語に入れて、書けるようにしようという話です。国語の教科書も大変です。新潟の「潟」を何学年に入れるか、とか。学年指定がありますから。そのレベルです。

X 新潟と言えば、「潟」とはラグーンではないですか。私がおの漢字をネタに授業を考えるとすれば、なぜ日本海側にラグーンがあるのかを考えさせ、それで終わりにするのではなく、今度は銚子のあたりでは利根川があんなに砂を太平洋に流出しているのにもかかわらず、なぜラグーンがないのかという話につなげたいですね。若い先生はラグーンについては教えられるのですが、関連する他のものと話をつなげることができていない。今は先輩から、「この話とこの話をつなげればよいよ」と教えてもらう機会がないですからね。我々も忙しいので、職員室でお茶を飲んで話すなんてできません。みんなパソコンに向かって、必死にキーボードを叩いていますから。

長谷川 そういうエピソードやノウハウを集めたものを作ることはできるで

しょうか？

X もはや無理でしょう。持ち時間を10時間に減らして、学校に何でもできる事務の人がいてくれるのならできるかもしれませんが。昔は、わりと職員室で煙草を吸いながら談話できるようなスペースがあって、そこでいろいろ話ことができました。

出版社 それはわかります。今では先生方の仕事の中に日々の事務作業が入り込んでしまっていますから。

A 私はわりと恵まれていて、現在、世界史は3人で教えていますが、よくそんな話をしています。「そのネタよいね、自分も使おう」とか。

長谷川 困りましたね…。どうすればよいでしょうか。今の話だと時間がなから無理となりますね。

A 学校によって、やらなければならないことが多いし、やるには時間が足りない過ぎます。

前回地理を担当したときは進学校で、僕は1年生に地理を教えました。3年生にセンター試験で「地理B」を受験できるように、基本的なことを教えてほしいと言われていました。

ですから、自然地理から始めて少しずつ…。気候は「地理B」でもやりやすからね。しかし学校によっては、先ほどC先生が仰っていたように、もっとも基本的なことを教えることもあるでしょうから、同じ「地理A」でも教える内容が学校によって変わって

くる。それは歴史・公民だろうが専門以外の人であっても同じことだろうと思います。

8. 試験問題作り

X 先ほど、専門でない方へのフォローという話が出ましたが、一番重要なのは試験問題だと思います。結局、新学習指導要領の地理を真剣にやろうとして、例えば「見方・考え方」を観点としてやろうとしても、「見方・考え方」の問題などを作るのはとてもたいへんだと思うのです。結局、「これを知っているか？」という知識・理解の問題になりがちです。我々は授業の研修や評価の研修はときどきしますが、試験作りの研修などは、一度も受けたことがありません。Y先生、ありますか？

Y 残念ながらありません。

X ですから自己流のままずっときてしまっている。「単元のゴールはここですよ」、そして「こういう問題を解ける生徒にしてください」というゴールをはっきりさせてから、ではそれに向けてどういう授業をしていけばいいのか、と逆算していかないと駄目だと私は思っています。

長谷川 歴史の先生方は、地理の試験問題を作成するときにはどのようにされていきましたか？

A もっとも参考にするのは入試問題です。「地理A」を教えていたときは、「地理B」の問題を参考にして、その

範囲でどのような問い方をしているのかをみつつ、作成していました。

C 私の学校は、そこまで難しい内容をできないところでしたので、副教材に載っている資料やワークノートで問われているものを参考にすると大きく外すことはなかったです。基本的な知識部分は、乱暴に言ってしまえば世界史も日本史も地理もそんなに変わらないので、うちの生徒ならばこの程度は答えられるだろうなという目星をつけながら作っていく、という感じです。

B 私もだいたい同じです。どうしても「受験科目です」と言われると、あまりそのことに縛られるのは本意ではないと思いつつも、入試問題を研究して作問するということが多いです。中堅校に勤務していたときは、かなり自由にできたので、試験でも作業的な出題も入れてみました。地理はいろいろな内容が網羅的に入ってくるので、先ほどのX先生が仰ったように、本当に社会科の入門科目という感じです。

長谷川 教科書会社はそのようなテスト問題集みたいなものを発行していますか？

出版社 準拠版ワークブックとかたちで教科書を使ってそのまま解くようなものと、あとは定期考査問題例とかたちで教授資料のDVD-ROMに収録しています。

X 先生方のテスト作成能力が低下しているし、じっくりと作っている時間

もない中、校長から「地理を担当してください」と言われるのが2月か3月で、4月から授業が始まります。授業だけで精一杯なのに、良質なテスト問題など作れるわけがありません。ですから、最初からパッケージとして、「これをやっておいてください」というものが必要なのではないのでしょうか。

スマートフォンで何でもできる世代の人たちがこれから教員として入ってくるのですから、そういうものに対応していく形で教材や良き手本となるテスト問題を提供していくべきなのではないのでしょうか。

出版社 情報をすぐに入手できるようなものに、という感じですね。

X そうですね。

長谷川 今の話ですと、例えば教科書会社が教授資料の中のテスト問題などについて、「こういう問題もありますよ」と紹介し、「それを定期考査で使うために、このような感じで授業を進めていくとよいですよ」と示す感じでしょうか。

C 「進めていくとよいですよ」ではなく、「こういう問題があったときに、こういう学校なら、こういうアレンジができますよ」というような例示があると現場の教員は助かると思います。

長谷川 学校の学習レベルに応じてということですか？

C 学習内容や生徒の学習状況に応じて、ということです。例えば、世界史

が専門ではない教員がみてわかる問題や、生徒が教科書だけをみてわかる問題を求められると、世界史の教授資料や副教材をベースに作っていくことになります。もとのリード文や資料がしっかりしていればいくらでも改変が可能です。歴史の問題であれば我々にはできますが、地理の問題文を改変しろと言われたときに、ピント外れの改変をしてしまう危険性があるので、方向性を示唆してくれるとありがたい。

X 産業構造を表す三角グラフで、例えば途上国が二つ、先進国が一つあるとして、上から順番に、インド、中国、ドイツあたりが並んでいるとします。その国を差し替えようとするときにどの国がふさわしいか、私やY先生ならすぐに浮かぶと思うのです。旧共産圏だったら第2次産業人口比率が高いからベトナムを入れておくか、という感じになるのですが、そういう部分のアドバイスができていない。そして、地理の教員は学校に一人しかいないので、そのノウハウを受け渡す相手がいない。ですからそういったノウハウがある程度デジタル化して残していかないといけないのかな、と思います。

出版社 テスト問題とともに、先ほどからのエピソードみたいなものも情報提供が必要ですね。

X そうです。これを授業で扱うときに、この話題と関連づけたらどうか、のようにね。

出版社 教科書のカリキュラムに沿っていくとよいですね。

X そうですね。そこにつなげて先生方が個人で教材研究をしていくとなると大変だと思いますので。

A ただ、教材研究がそのように安直なものかどうかとは思いますが。例えば教授資料の中には板書例などが入っていますが、そこまでする必要があるのかなと思います。そういう傾向はだいぶ前からあって、作ること自体はやぶさかではないのですが、何か変だなという気持ちはあります。しかし、出版社に「そういうものをつけないと売れないのです」と言われると、「ああそうですか」となります。

長谷川 歴史の先生が歴史の教授資料をみればそうかもしれませんが、歴史の先生が地理の教授資料をみたときに、そういうものがあると、ありがたく感じませんか？

A もちろんそうなのですが、歴史が専門といっても、勤めて間もない頃は素人同然なので、本来は自分でいろいろなものを読んだり調べたりして作っていくべきではないかと思うのです。ですから、地理を教えると時間を取られるのですが、そうした教材研究をしないと実にならない。先輩から貰えばラッキーではあるのですが、そこからもう一歩、自分で考えることをしないといけないのではないのでしょうか。

ただ先ほどX先生が仰ったように、

時間的な制約もあるし実際には厳しいかもしれません。

最近新しく着任する若い先生に話を聞いてみると、世界史で採用されたものの実は専門は歴史ではないという人が多い。

大学で4年間学んできたことと、10年間仕事をしながら学んでいくことは別ですし、たかだか4年間学んだことで生徒に教えているわけでもありません。基本的なサポートとしては、参考資料や、「こういう本があるよ」という情報を提供することがベストだと思います。

X しかし、もはや崩壊状況がそういうレベルでないように感じます。緊急輸血をしないと駄目なように思います。
長谷川 緊急輸血とはどういうことをすればよいのでしょうか。

C 試験問題の作成をゴールとするならば良質な試験問題を提示するといったやり方もあるでしょうし、さしあたり、これくらいのエピソードは知っておいた方がよいよ、ということを提供するという手段もあるかもしれません。そこから先については個人の技量次第なのです。

生田 私は20年くらい前に、定期試験の問題例を作成し教授資料に入れるという仕事をさせていただきました。その問題例を生徒のレベルに合わせて調整するということはできないのでしょうか。

X 生徒のレベルに合わせてというのは結構厳しいのではないのでしょうか。教科書会社に問題を作してほしい理由としては、図版を作るのが面倒なのです。例えば三角グラフなどはプロが作成しデータ提供してもらった方が早いですし。

C 今はずいぶんデータが入手しやすくなり、歴史でも、図版やグラフを入れた作問はとても作りやすくなりました。

出版社 図版を収録するときどの程度変更できるようにした方がよいのでしょうか。

X 変更するほど熱意のある人はそんなにいないのではないのでしょうか。

出版社 例えば文字を抜いたものを用意する、などでしょうか？

X そうですね。教科書に載っている図を定期考査に使用するのなら、というイメージですね。ただ、白黒で入れてほしいです。

出版社 定期考査問題例はWordで用意してあるので先生方で変更できるようにしています。また、基礎だけではなく応用の問題も用意しているのでちょうどよいレベル、というご意見をいただいています。そのあたりの絶妙さが魅力になると思っています。演習として大学入試に対応した良問を入れてほしいというニーズもあります。

X 実物をみていないのでわかりませんが、そのあたりの問題が思考判断的

なものにこれから代わってくるわけですね。あのような練り上げた問題³⁾を毎回の定期考査で作成することは無理です。

出版社 各社とも、そのあたりの工夫が始まっていて、例えば、中学の教科書では、問いかけと答えを各見開きページに記載していたり、資料集にも問いかけが入っていたりします。それを実際の授業にどう落とししていくかということが今後の課題です。評価方法も考えなくてははいけませんし…。

今までは「次のような知識を身につけること？」だったのが、「次のような思考力・判断力・表現力を身につけているか」と並列して入ってきたときにどう対応するか、ですね。

9. 教授資料の内容

B 世界史の教授資料をよく読み比べているのですが、確かに、教授資料やそれに関連するもので、ここ最近というか10年くらいでしょうか、例えば、以前の教授資料では、こういう論文があって、こういう文献があって…という内容だったものが、最近ではそういうトーンではなく、マニュアル化してきているように思います。デジタル教材も収録されていますし、板書例のみならず、某社の教授資料では授業用パワーポイントまでついています。それがよいのか悪いのかわかりませんが、自分としては嫌だなと思っています。

自分の授業で、試験の位置付けというのは、自分の授業評価でもあると考えます。ですので、他の人が作成した問題では試験はできないと思っています。もちろんリード文などを他から借りたりはしますが、やはり「これを聞きたい」、「自分の授業のここをわかってくれたらいいな」ということを思いながら作問するので、「なぜ教授資料にそうしたものがついてしまうのかな」と思っていました。しかし、先生方の話を聞いていますと、最近の若い先生方はそのあたりのハードルが低いというか、抵抗がないのかもしれませんが、しかししたら、それはそれで受け止めなければいけないのかもしれませんが。

出版社 教授資料には教科書の図版を画像ファイルの形式で載せているのですが、学校で使われる頻度は、増えている実感があります。

B 教科書会社には、使っているかないかだけでなく、どういう使い方をしているかを調査すると参考になるかもしれません。

出版社 教科書の図版をモノクロ化した画像ファイルを、プリントやテスト問題などに貼り付けて使うことは多いようです。あと、教授資料に収録している中では、白地図をよく使っているという意見を聞きます。

C 白地図は世界史でも応用させてもらっています。

生田 教科書会社も含めて、どうい

サポートをすればこのような授業ができるのか、と聞いていけば、今はそれができていないということですし、何かみえてくるかもしれません。

例えば「問題例が必要だ」という意見はこれまでに縷々述べています。

C 「歴史総合」と「地理総合」がそれぞれ2単位だから、高校でさせてもらえるかはわかりませんが、1年生に両科目とも置いて、歴史と地理の教員が連携して、実質的に4単位の授業として構成できればかなり面白い授業ができるのではないか、と思うのですが。

A しかし、図1をみると、「え〜っ」となりますよね。

X 「地理探究」の方が「地理総合」より現場の先生は教えやすいでしょうね。

A 「地理探究」は現行の「地理B」ですから、そちらの方がやりやすいと思います。

出版社 これまでにお会いした高校の先生方は、「地理探究」を先に教えて、そのあとに「地理総合」を教えられないうだろうか、と言っています。

10. 地域調査と「地理総合」

長谷川 先ほど「歴史総合」と「地理総合」をセットで教えるという話が出ましたが、それについてはいかがでしょう？

X 私は最初の授業で地理と歴史をセットにした話にしています。というの

は、高校にはいろいろなエリアから通学してくるので、「まずこれから3年間通う高校の周辺について調べようよ」ということで、「このあたりは昔どうだったのか」というところから始めるのです。

出版社 「地理総合」が必修化されたとき、受験と関係ないところをどのように教えていくかということも大きな課題です。どうしても今は世界地誌などが中心だということですが、逆に身近な地域を扱うことは歴史と地理の先生は協働しやすい。教科書には主要な例しか載せられませんが、身近な地域を考えるパターンを先生方に作ってもらうことはできないでしょうか。

X 地域調査としては、「こういう調査手法がありますよ」ということになりますね。本当は最後の部分は地域の博物館や郷土資料館のようなところに丸投げしたい、といつも思うのですが。小学校の方が結構きちんとやっています。

Y 小学校では「まちたんけん」という形で、児童を外へ連れて行きます。中学校でも外へ連れ出すところがありますね。そもそも通学区域が狭いですから。高校になるとその範囲も広がってしまいますし、「どうしよう」という感じです。

X 私の勤務校は一学年8クラスありますが、全クラスに同様の体験をさせなくてはならないとなると、雨天な

どの場合も考えると面倒なので私はやりません。

出版社 校外での活動は実際には難しいということですね。

A 歴史の授業でも博物館など外に連れて行く先生もいますが、少人数ですよね。

C 希望者だけですとか、選択科目の授業で行く、とかですね。

A 普通科8クラスではそれは無理ですね。

出版社 ある学校の先生は、博物館に出張で来てもらうと言っていました。出前授業という形ですね。現物を博物館から持ってきて、そこで授業してください、と。

C それでも8回の出前授業は無理ですよ。かといって、講堂などで8クラスまとめてやったら臨場感がなくなるのではないかな。

長谷川 修学旅行などを学習と結びつけて利用することはできますか？

C よほど修学旅行の計画を学習と結びつけることが好きな先生が修学旅行を担当すれば、ある程度は可能でしょうが、生徒には不評でしょうね。

出版社 生徒が面白いと思って、現地に行かなくても調べられたり、歴史とつながられたりする部分がうまく教材として準備できるとよいと思います。モデル授業というよりは、先生にお任せするという形でしょうか。

X 歴史以外でも私は科学ともつなげ

て授業を行っています。例えば、NHKは時代考証をきちんとやっているので、「坂の上の雲」などをみえますと、きちんとその当時のランプを持って演じていて、「ああそうだよな、あの頃はまだ電灯じゃなくてランプだよな」ってなるわけです。つまり、知識があればドラマでもきちんと応用できるのですよね。

例えば、「戦車が歴史上に登場したのはいつ頃なのか？」というような設問が、それは科学の分野だろうと言われてしまうかもしれませんが、そういうのも一つのアイデアとしてあると思うのです。

このような授業活用のアイデアを集めたポータルサイトみたいなものがあると面白いと思います。高校生のときからスマホを活用している世代がそろそろ学校の先生になるわけですから。

生田 愛知県教育委員会が中高向けに濃尾平野は昔は海だったといった冊子⁴⁾を作って郷土研究のサポートをしています。そういうものはX先生の県にはないのでしょうか？

X ありません。

生田 「総合的な学習の時間」(以下、「総合的な学習」)などで時間を作って、取り組むという可能性はないのでしょうか。それと、今までのところを集約すると、試験問題例を教科書会社から提供できると、少し先生方も楽になるのかなと。さらに教育実践例を紹介す

る場を作ると、先生方のプラスになるのではないかと思いました。「総合的な学習」で行うとか、2022年からは「総合的な学習」が「総合的な探究の時間」（以下、「総合的な探究」）に変更になりますが、そういう可能性はないのでしょうか。

X ないと思います。なぜかというところでは「総合的な学習」の時間は担任のみ持ち時間としてカウントされますが、他の教員はカウントされないのでボランティアでやることになり、大変な負担になるのです。教育委員会からもやるように言われるのですが、金も人も出さない状態なので、非常に厳しいと思います。

本来「総合的な探究」ですべきだとは思いますが。

C そもそも「総合的な学習」を課題研究的な内容の授業にあてられる学校はいったいどれくらいあるだろうか、まずそこが問題です。

何をやるかというところ、「総合的な学習」は、自分のキャリア形成のための時間という位置づけなので、多くの学校では進路指導（探究）をより充実させる目的の学習に力点が置かれているようです。

一方、課題研究的な内容を中心に置いて、生徒それぞれのテーマに対して担当する教員がいて、そこでやりとりしながら自主的に調べ学習を行う形態は理想的なのですが、校内のコンピュ

ータルームと図書室がパンク状態になるという問題点があります。ただ、生徒は歴史とか地理とか自分たちの中でカテゴリーを設けないので、それを教員が導くのであれば、一つは良い形になるのだと思います。

A 「総合的な学習」が出てきたときにいろいろな実践例をみせていただいているのですが、これができる学校は本当にごく一部だと思います。

生田 勤務校は修学旅行も「総合的な学習」の枠の中でやっていました。

C そのあたりが、公立学校ですと、修学旅行のすべてを「総合的な学習」にあてるのは難しいという現状があります。ですから、ほとんどの学校で修学旅行が「総合的な学習」に組み込まれていますが、多くの場合、沖縄などでの平和学習くらいです。

B 「総合的な学習」を使うことは、条件つきなのですが、自由にはできるとして、それが学習活動全体の中でのような位置づけになるかというところ、現状厳しいといわざるを得ません。本県の場合、授業数にカウントされますが、多くの学校がそうであるように、最低の単位数しか配当ができません。そこで、学校によっては、「生き方・考え方」を進路学習に読み替えているところが実態だと思います。

11. 地理の目指すものと地理でできること

B 以上のように考えると、我々が一番頑張れるところは、それぞれの授業の中でしかないと思います。新学習指導要領をにらんで、世界史であったり、地理であったり、それぞれのところで、とりあえず10年のスパンで何を目標してやっていくのか。このことを、実際に現場で生徒を目の前にして、何を学ばせるのか、高校の授業において生徒は何を身につけるべきなのかなどをきちんと詰めておかないといけません。

今日議題になっているように、歴史でできることもあるし、地理でできることもあるし、あるいは両方で対応できるところもあります。我々が学生時代に学んだ地理と、教員となって担当している地理と、そして、来たるべき新しい地理について、何が同じで何が違うのかという点を整理していただくと、たいへん参考になると考えます。

C それは是非知りたいですね。

B 昨今、各出版社が作成している試験問題例やシラバスなどは、たいへん参考になります。便利なのでそのまま使ってしまうということもあるようです。それを前提として、出版社がこれらをどのように使わせるのかも考えていかなければなりません。あるいは教材を作っている大学研究者や高校の現場、出版社にも伺って、こう使ってほしい

というところを盛り込んでいったり、この問題はこう使ってほしい、とそこまでいわないといけない時期に来てしまっているのかもしれない。

昔は良い問題を作って「どうだ!」と示して、そして、受け止める側もそれを消化できたのでしょうか。しかし、今ではもう少しそこに+ a をしないとイケないのかなと思います。

長谷川 うまくまとめていただいてありがとうございます。

今のお話については、教材や問題集などをどう使ってほしいのか、問いかけの意図や背景などの詳しい説明まで全部まとめて提案するということだと思います。おそらく、そういうことが教科書会社への課題ということになるのだと思います。

B 加えて言うと、少なくとも地理はこういうことをやりたい、ということ一度まとめておいていただきたいなと思います。

我々世界史を専門とする立場から言えば、次の学習指導要領がどうなるか、という議論はあるのですが、歴史を教えている以上、こういうことを教えたいというものがそれぞれあるわけで、それは地理を専門としている方にも語ってもらいたいな、と期待します。

長谷川 「地理を学ぶとはどういうことか」というようなことでしょうか。

B 「地理を学習すると、生徒にとってこういう力が身につく」ですとか、

何かしらメッセージがあると思うのです。

本日、世界史教員の我々が集められたように、地理はいろいろなところに関連して学習していく科目だと思っております。歴史に対して、「こういうところにコミットできるんだ」というようなことを提案していただけるととても助かります。

また、「なぜこういうことを教えないの？」という歴史の授業への要望を発信されてもよいと思うのです。

その交流の上で心の準備だけでなく、お互い歩み寄っていけば、一步を踏み出せるのではないかな、と思いました。

A 歴史を教える我々は「なぜ歴史を学ぶのか」というものを持っているつもりです。ですから、羽生善治さんが「僕は将棋のことがわからない」と言うので驚きましたが、最初に言ったとおり、地理に関しては教えていて面白いのですが、その部分に自信が持てない。

こうだからこうなのだよ、という因果関係は一応説明できますが、「で？」とその一歩先になると自信が持てないのです。

長谷川 それについては、地理のX先生から、ぜひ。

X 個人的には地図化・分布でしょうか。私が考える地理の基本は、分布からものを見るということだろうと思っています。あとは、「我々がみている

地図は平面だけれども、高さの要素も考えてみると違ってくるよ」ということも言いたいですね。Yahoo!知恵袋で、「ボリビアにインディオが多いのはどうしてですか？」という質問があって、「インカ帝国があって、その支配体系を利用した」と回答がありました。確かにそれもあるのですが、しかしそこには4,000mという高地で空気も薄い環境だから、そもそも白人は住みにくいという、つまりこの議論の中には空間（高さ）の概念がなかったな、と思います。

ふだん目にする地図にはあまり高さの要素がないので、地図をみるときに少しだけ高度の要素を加えて考えるということをやってみると、見方も少し変わってくるのではないかと思います。

出版社（地図ソフトをみせて）このように地形だけを表示することもできます。

X 白地図ですと、輪郭だけしか表示していませんね。地理がわかっている人だと、「そこにアンデスがあるね」、「アンデスってけっこうな高さだね」となります。意識せずに高度情報を補っているんですね。

C 面白いですね。地形との組み合わせだったら歴史でも使えそうです。やはり、地形と自然と歴史は絡めて話さないとわからないものですね。

たぶん無意識にはつなげていると思うのです。歴史を教えるときは地理も

入ってくるし、地理を教えるときも歴史を絡めているのですが、それがどうかという全部自己流ですよ。それはそれでよいとは思いますが、自分の専門でない科目を教えていると、「なぜそれを学んで、どうなるのか」ということがわかりません。

B 少なくとも **C** 先生が仰ったような無意識に学んでいるのかもしれないということについて、実はこうなのだよという謎解きというか、リンクさせておくことが大事なのではないでしょうか。それを準備していくことが、今日、話題の一つになった、最近先生になった方々へ、何か刺激を与えたり残したりするものにつながっていくのではないかと思います。

長谷川 情報源をどうにかたちで提供できたらよいと思いますか？本だと読む時間がないとも聞きますが。

C 我々の世代は自分で面白そうな本を買ったり、サイトをみたりしましたが、そこの入り口もわからなくなっている可能性もあります。とりあえず、こういうものがあるよ、とコンテンツの紹介が第一なのかなと思います

長谷川 その紹介をどういう媒体でするともっともよいでしょうか？

C 難しいですね。

Y 私が初任のときは、「地理 A」を教えることにとても苦労しましたので、やはり教授資料に載っている参考文献一覧が参考になった記憶があります。

ですから、余計かなと思うくらいの情報量を見せておいてもらえますと、大変助かります。文章を読むよりは、私には案外その方が役に立ちました。とくに、参考文献に載っている図版や統計が役に立ちました。

長谷川 そういうものの中に歴史など他分野との関連性や小話のようなものも含めて入れるとよいのでしょうか？

C あと、管理の問題があって実現が難しいと思いますが、教科書会社が SNS 上でフォーラムを作って、それを登録制にして、情報やオリジナル教材の共有などをやっていく方法もあるかもしれません。ただ、管理が大変でしょうね。某出版社でやっているものは似たような感じでしたが。

出版社 一方的な情報の紹介に終始してしまうおそれがあるのではないのでしょうか。

C そのとおりで、一方的な情報で、「自分、これをやりました」というだけになりがちです。ただ、意見交換にしまうと一般の SNS と同じになって炎上する可能性もあるので、そこは管理が難しいかもしれません。

それでも、そういう場がどこかにあった方がよいとは思いますが。せっかく通信が便利になったのですから。

出版社 いずれ教科書も紙媒体からデジタルに移行しますから、そちら側からの発信がメインになるのではないかと思います。

B 当たり前ですが、まとまった形の文章であれば、今日話題になった、教授資料には入れた方がよいと思います。若い先生方をみていると教授資料を読んでいる人が意外といます。「この単元はこう指導したい」、「このように利用できる」、「このような点を評価する」などなど、きちんと具体的に記してくれるとよいのかなと思います。

必ずしも専門としていない人でも利用できるとか、「こういう授業ネタがある」、「こういう展開ができる」などなど、是非もう少しいろいろ載せていただきたいものです。

教授資料もこれから紙媒体からデジタル化にいつそう向かうことでしょう。収録できるデータ量も増えるでしょうし、よりたくさん授業ネタを手に入れることができるはずです。

A 長谷川先生にお願いなのですが、大学で地理の研修のようなことをやっていただけるとよいのではないかと思います。

長谷川 高校の先生向けに、ですね。

A 教員免許更新の際やそれ以外でも、研修で参加できる制度を設けて、「地理とはこういうことなのだ」ということを教えていただけると、大変ためになるのではないかと思います。

例えば、地理を来年度教えなければならぬから、ちょっと勉強しに行こう、とか。そこで刺激を受けるとまた自分で勉強しようと思うでしょうし。

そういうことを大学にはお願いしたいですね。

長谷川 忌憚のないご意見をいただき、取り組みなければならぬ課題がみえてきた気がします。長時間にわたってありがとうございました。

〈註〉

- 1) 高校地理教育シンポジウム（2015年5月16日）
- 2) 今昔マップ on the web (<http://ktgis.net/kjmapw/index.html>)
- 3) 2017年11月に実施された、「大学入試共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）」
- 4) 国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所による「自分で考え自分の命を守る 防災テキスト」(http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/bousai_text/index.html)

座談会を終えて

今回の座談会は、来たる「地理総合」必修化へ向けて、「地理を教える上で歴史の先生方の意見を知りたい」という目的であったため、山川出版社の協力を得てベテランの歴史の先生方にお集まりいただいた。今回集まっていた歴史の先生はいずれも世界史を専門としていることから地理との親和性も高く、また世代的に、高校で地理や地学を学んでいる先生方だったため、地理の授業にも比較的抵抗がなく対応できたという意見であったと思う。これがもっと若い世代の先生方、例えば高校で地理も地学も履修していない先生だと状況はまた変わるだろうと思う。そのような若い先生方の様子についても間接的に伺いできたので大変貴重な機会となった。

座談会で得られた情報で、特に印象に残った点が三つある。一つ目は、授業の仕方や、授業で教える内容・情報の入手手段である。地理専門教員は教科書を使わないで資料集で授業を進める、という話を聞かすが、歴史の先生方は教科書に基づいて授業を進め、教授資料を参考にする、という声が聞かれた。このことは、来たる「地理総合」で歴史や公民の先生方が、授業をやりやすい、情報が得やすい教科書や教授

資料を提供することが、大変重要なポイントだということだろう。特に、最近の若い先生は時間的な余裕がないため、シラバスや教授資料、テスト問題、など様々なコンテンツが既に用意されていると使いやすいという指摘があったため、これらの充実が求められる。

特に、今回出た意見として、「地理で何を学ぶのかわからない」というものがあった。これを受けて、現在発行されている、各社の地理A教科書を確認してみたところ、教科書の冒頭に「地理Aはこんなことを学ぶ科目です」という説明文があるものは少なかった。来たる「地理総合」では各社教科書の冒頭に「地理総合」のゴールや狙いといった文章を入れる、あるいは教授資料の中でしっかりと解説をしておくといった工夫ができると良いのではないかと考える。

二つ目については、地理教員の絶対数が少ないため、同じ高校の中で情報交換をすることができないという問題である。同じ学校の中で先輩や同僚から教え方の実践例などを日常的に意見交換できる機会は大変貴重であるようだ。しかし現状では、そのような情報交換できる地理教員が複数いる学校はほとんどなく、また最近ではそのよう

な茶飲話的な時間をとること自体が難しくなっているという問題が挙げられていた。確かに、私のような部外者が傍目からみても、高校の地理の先生は様々な研究会や研究授業で実践報告を聞いたり実践例をみたりすることに大変熱心のように思う。これはそういう機会が勤務校で得られないためであるのかもしれない。

これについてどのような対応ができるのかだが、地理専門教員を一気に増やすことはできないため、先生方が必要としている情報をもっと簡単に入手できる仕組みを複数出していくことが必要であろう。座談会の場合でも教員向け地理情報誌を重宝している、という声があった。これまで既にやられているようなことだけでなく、新たに本を出す、ネット上で様々な情報を提供していくなどの取り組みも必要であろう。また、それらのような提供型の仕組みだけでなく、先生方の悩みや疑問を受け付けたり情報交換ができる相互交流型の（オンサイト、ウェブサイト両方での）仕組みを作っていくことも必要だと思われる。例えば、教科書会社が高校を訪問する際や、教員向け情報誌などに「なんでも質問コーナー」のような質問用紙を挟み込む、質問受付のメールアドレスを開設するなどして様々な疑問や相談を吸い上げ、それらの疑問にベテランの地理教員が紙面上で返答を載せる、などといった仕組み

があるとよいかもしれない（これは教員向け情報誌である必要はなく、他の仕組みで行うことも可能だが、毎年高校教員を訪問し、定期的に情報誌を郵送する教科書会社が行うのが一番効率的であると思われる）。ちなみに地学分野では埼玉の高校の先生が個人的に開設したメーリングリストが徐々に浸透し、授業を行う上での質問などを気軽に投稿し、他のメンバーが答えるといったことが行われていると聞いたことがある。様々な手段でのサポート体制の充実が求められている。

また、本座談会では試験問題に対する充実の声が多く上がったため、現在行われている教員研修の中で試験問題作成に関する研修を行うといった新たな取り組みも必要になるだろう。

三つ目は、今回座談会に参加した先生方にとって、高校時代に系統地理を学んでいたことが、地理を教えるときに大変役に立っていたという意見である。一方で実際に教えるのは地誌の方がやりやすいというのは歴史を専門とする先生のみならず地理専門教員からも聞かれた声であった。これは、たとえば地理Aが「地理総合」になっても、教える先生にとってはやはり、系統地理の知識がある程度あることが重要である可能性が示唆される。そのためには、「地理総合」には直接的には含まれないであろう系統地理の基本的な知識が身につけられるようなわか

りやすい資料の提示が必要となるだろう。歴史と地理の壁についてである。筆者が前号に書いた「歴史は暗記科目なので苦手だった」ということに対し、歴史の先生から「そう思われたいように授業をやっているつもりだがそのように思われてしまって残念」という意見があった。地理の教員も、単なる地名の暗記ではない地理の見方がある、と考えているが、それは同様に歴史の先生や授業を受けている生徒にはうまく届いていないのかもしれない、…と言ってしまうと元も子もないが、そのような壁を少しでも低くするための様々なコンテンツを提供するということはできるだろう。また、今回の座談会で得られた意見で希望が持てるのは、「歴史を専門としていても、大学で学んだ歴史だけでは足りず、10年単位で授業を続けていく中で身につけていくものがある」という点である。そのような観点に立てば、地理を教える上では大学での専門が必ずしも重要なわけではなく、たとえ大学での専門が歴史学であったとしても、地理歴史科の教員となり地理を10年担当すれば、地理のベテラン教員になっていく可能性があるということだと思われる。今回の座談会で地理を担当した歴史教員は、担任制度や学校の事情で単年あるいは数年地理を担当するというケースであったが、「地理総合」が始まると10年単位で地理教員が不足する可能

性が考えられるため、そのようなベテラン（元歴史）地理教員が出てくる可能性もある。ただ、歴史の教員の多くはやはり歴史を教えたいであろうし、地理を10年間も教えたくないであろうから、毎年教員が持ち回り制で担当することも大いに考えられる。その場合には経験を積んでいない若い教員を想定して、サポート体制を考える必要があるだろう。これらの先生方にもわかりやすい、使いやすい様々な情報をいかに提供できるか、という課題が残る。

以上の点をまとめると、結局は、地理を専門としない教員に対して、地理をよく知る教員から、どれだけ様々なサポートができるのか、というところに、「地理総合」を成功させる一つの鍵があると、筆者は考える。

※なお、この座談会は新学習指導要領公表前の2017年12月に行った。新学習指導要領の詳細がわからずとも、過去に地理を教えたことのある歴史教員の意見に「地理総合」が行われる際に参考になる点が多くあると考えたためである。本誌刊行時には新学習指導要領が公表されていることと思うが、本座談会を一つの参考として、より発展的な議論が行われることを期待する。

(はせがわ なおこ／

お茶の水女子大学准教授)